

明治四十年

(二月)

一月一日 庚戌 火曜 四方拝。晴朗。起床五時。

早起。天地四方拝。予、及家族、塾生等、食堂に着席、例年之通、椒酒、雑煮を喫す。賀客を受く。住居漸日本館のみ客を入れる、事を得。富永発俵来。家内一同撮影。越年生徒も撮影す。夜ハ哥かるたにて面白し。朝、家内、生徒同しく例年之通、氷川神社に詣て帰。暖、春三月の如し。君か代を奏して陛下の万歳を祝す。

発信 年賀状三百枚にたつす。

*富永発俵(富永発叔) *哥かるた(哥カルタ) *たつす(達す)

一月二日 辛亥 水曜 霰。起床六時。

朝、例の如く雑煮、食堂にて生徒と同しく喫す。あられにて庭も真白になる。夜に入て雪ふり出して積る事三寸。

*あられ(霰)

一月三日 壬子 木曜 陰。起床六時。

午前四時十分前、地震。朝、書写す。朝、戸明て雪積る事五寸位。初雪には珍らしく、風色又殊なり。来客、橋岡久太郎。新年松謡初す。小村文子。

一月四日 癸丑 金曜 晴。起床七時。

書写す。午下早々年始に出かける。始、北白川宮様に詣す。閑院宮様に詣して、両殿下拝謁。御祝酒を賜はる。暫時御話申上て、東伏見宮に詣して、両殿下に拝謁。此時、小松宮頼子殿下成らせられて、種々御話し申上、御祝酒賜はる。夫より三条家に行、御一統様に御目にかゝる。代神楽を見而帰。大炊御門、姉小路に行て帰。

一月五日 甲寅 土曜 細雨。起床七時。

書写す。

一月六日 乙卯 日曜 晴。起床六時。

(コノ日、記事ナシ)

一月七日 丙辰 月曜 晴。起床六時。

朝、七草粥を祝ふ、例の如し。墓参して帰。

一月八日 丁巳 火曜 晴。起床六時。

昨日より準備、掃除して、午下一時、生徒一同参集。習字教場にて職員一同着席。一同君か代唱歌。次に、校長新年に告る辞を朗読す。須川氏、羊の講話アリ。畢而一、二、三、四、五年の唱歌にて式全畢。裁縫教場にて福引、余興、二百種。本日会する者、百九十四人也。四時退散す。姫君三殿下成らせられる。塾生も続々帰塾す。

(来信) 大沢亀子。関一郎氏より、するめ着。

一月九日 戊午 水曜 晴。起床六時。

課業はしめ。午後二時畢。夫より車にて愛国婦人互礼会二行。総裁殿下及山科国の宮御息所御台臨にて、食事中、貞水、白鶴の講演アリ。三時後、賑々敷畢。夫より田村氏に行。金雄子の病気を尋ね晡時帰。

(来信) 名古屋や岩津氏より、ベル着。

*白鶴(伯鶴)

一月十日 己未 木曜 晴。午前一時頃、大あられふり出したり。起床六時。

課業例の如し。

発信 関一郎え小包。下瀬氏え祝もの。外に端書五。

*大あられ(大霰)

一月十一日 庚申 金曜

課業例の如し。

発信 栃木町伊藤幸子え洋菓子、小包もの出す。

一月十二日 辛酉 土曜 晴。

臨時休業す。泉会新年会。朝九時、横浜より茂木栄子、西村政子来る。本日幹事。先、式場裁縫教場、脊に金屏風を並へ、デウタンテ敷詰る。第四教場、福釣堀屋、福介、おかめ主人也。習字教場を食堂とす。皆々準備に忙し。午下一時、会員続々来る。二時、会長本日の祝辞朗読す。畢而貞水講演、閑院宮沙河の御手柄咄し、或ハなき或ハ笑ひ面白く、一席にて畢。夫より一同福釣堀にて福釣出し大笑。立食場に入る。此時、一同景品を明る。里の童落葉かきのすかた美しく、草刈籠を脊負て来り、紙くずを入れる。珍らしく興に入る。食事中、茂木氏、西村氏より福引を食事中にする。夜八時、全畢。

予ハ志賀氏下瀬氏結婚披露会に招かれ、六時より新橋花月楼に行。十時過帰。

*デウタン(絨緞) *すかた(姿)

一月十三日 壬戌 日曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

一月十四日 癸亥 月曜

発信 京都御寺御所え小包物。房州重威え、小包物。

(来信) 伊藤泰子より林檎二箱着。

一月十五日 甲子 火曜 晴。起床五時。

朝、墓参して帰。午下早々橋場三条様え御年始に参り、信受院様いまた御床ながら御目にかゝりて、御祝酒いたゞき、去て、小松宮様に詣し、頼子殿下御側にて御祝酒いたゞき、寛々御話し共申上て、五時去。堀田道貫葬式二付、石山氏代理会葬す。

(来信) 小柳母より鴨二羽着。関一郎氏より為替十円、書状着。

一月十六日 乙丑 水曜 晴。4(ママ)度。起床六時。

課業例の如し。本日、津田弘孝着初式二付、酒肴御祝膳をすへ、新座敷にてめて度執行す。予、午下二時より宮城に参る。御年詞申上、藤袴典侍御局にて御祝膳いたゞき、皇后陛下より白紋羽二重一疋御袖入拝領す。五時過、退出す。

*めて度(目出度)

一月十七日 丙寅 木曜 起床六時。

朝、課業例の如し。微恙にて臥。

一月十八日 丁卯 金曜 晴。

終日臥蓐す。

一月十九日 戊辰 土曜 晴。起床六時。

課業例の如し。午前十一時頃、湯のみ所煙出しより火出、屋根ぬけたり。大事に至らず、消し止む。

発信 関一郎氏、房州重たけ、平塚そで、福島須藤氏、実業之日本、帝国婦人協会。歌道奨励会え勅題哥出ス。

(来信) 訃音、小浜みわ死去。

*房州重たけ(房州重威)

一月二十日 己巳 日曜 起床六時。

来客、久米万千代、星野常子。

一月二十一日 庚午 月曜 雨。起床六時。

課業例の如し。

発信 濃州遠藤え小包出す。

一月二十二日 辛未 火曜 晴。起床六時。

故千久子十年祭に付、神前飾、神饌を供して、朝、墓参して帰。新築洋館出来、仮に客を通したり。午下四時、神前に参りて茶を入れて咄しの内、愛治郎、俄然さし込、苦痛いたし、漸の事にて自分の居間え連行。医師武藤氏来りて、注射ス。少しハ治したる様ながら、中々苦痛不止。井深氏も来り、又注射ス。夜通し看護不怠。来客、石山吉子、伴子。

*注射(注射) *注射(注射)

一月二十三日 壬申 水曜 晴。起床六時。

課業例の如し。愛治郎、病勢益甚しく、此夜十二時過より七転八倒の苦み、井深氏も来り、又注射して、漸いたみも楽に相成たり。井深氏云、肝臓に故障あり、長与氏かさゝ木政吉氏かを呼ひくれ様申され、長与氏頼みたるに、旅行中ニテ、佐々木氏早速来り診★(言十察)す。肝臓に石アリ。多分昨夜の苦痛にて腸二下りたるならむ。井深と同説也。大小弁検査する様にと也。

注射(注射) *かさゝ木政吉氏(佐々木政吉氏) *診★(言十察)(診察)

*大小弁検査(大小便検査)

(二月二十四日〜二十六日、記載ナシ)

一月二十七日 丙子 日曜

発信 実業新聞え画端書出す。

一月二十八日 丁丑 月曜 晴。

課業例の如し。来客、安部信子、大炊御門家政、石山須磨子病人見舞にきたる、河津敏子嫁英芝連てきたる、裏松千代子、万里伯。

発信 高部きくえ半襟小包出す。

一月二十九日 戊寅 火曜 陰、雨。起床六時。

愛治郎、病氣も日を追て経過もよく、先々安心也。本日吉辰なるを以て新築に引移る。来客、茂木栄子 元子を連て御礼にきたる、今津久子、下瀬氏細君 志賀喜代子連て御礼にきたる、小脇氏来、面晤す。

一月三十日 己卯 水曜 雨。起床六時。

紹地額面、精華二字揮毫す。来客、姉小路伯。三木本氏来、面会す。初対面にあらずと云。其妹三木本市子入学願ふたる節、御面会致したりと云。此度、三木本氏桑港行同道致され

候ニ付、種々携もの等尋ね、万事頼置候。
発信 橋爪房太郎え絵端書二枚出す。

(二月三十一日、記載ナシ)

(二月)

二月一日 辛巳 金曜
来信、秋田山崎兼子、書及真綿着。

(二月二日、記載ナシ)

二月三日 癸未 日曜 晴。起床六時。
午下早々高樹町に行。帰途、閑院宮様に詣し、両殿下拝謁す。十日、御息所御供にて、小田原御成所え成らせられる、御約束申上て去。此記事ハ土曜日也。
予、栄子と同じく、新橋十時四十分にて横浜へ行。原氏より馬車迎來り、直に乗て、原氏を三の谷に訪ふ。夫婦在宅、午餐を饗せられる。夫より梅林逍遙する。花開く事二分。新築茶席見事に出来たり。暇を告て、午下四時廿分汽車にて歸。
発信 秋田山崎氏え書出す。

*成らせられる、御約束(衍)(成らせらる、御約束)

二月四日 甲申 月曜 起床六時。
課業例の如し。

二月五日 乙酉 火曜 節分。雪。空陰々。雪降り出したり。午下止。起床五時。
桃子、栄子、宮城藤袴典侍様え御暇乞に参る。下り、九条様え伺て歸。來客、長与称吉博士を迎え、愛四郎診察を乞。病ハもはや治したる方なから、黄だんいまた治せず。こゝ二週間位にてよろしと云。書至、浜口八重子。

発信 久岡麻子え。浜口八重子え。

*黄だん(黄痘) *二週間(二週間)

二月六日 丙戌 水曜 晴。起床六時。
課業例の如し。來客、角野玉子、娘浜子、石山吉子、基弘、清水連郎、馬越恭平。書至、浜口八重子。

(二月七日〜九日、記載ナシ)

二月十日 庚寅 日曜 晴。

朝七時、出門。予、桃子と同じく新橋に行。閑院宮両御殿御供奉仰付られ、八時。

二月十一日 辛卯 月曜 紀元節。雪。

朝雪、午下晴。また謡などにて、午下五時、急行にて帰。

二月十二日 壬辰 火曜 晴。

来客、神津田鶴子父。

二月十三日 癸巳 水曜 晴。

課業例の如し。

二月十四日 甲午 木曜 晴。

課業例の如し。畢而觀世稻荷祭に行て帰。

二月十五日 乙未 金曜 晴。

課業例の如し。病人の容体よほどあしく、井深氏も言はるゝには、よほどの御重体故、御注意專一と。実に驚々入たり。此病ハ命に別条ハないと云事にて、段々食氣も付次第快復の事と存したるに、心も心ならず、桃子御所えはしり、侍医さまを願ひたり。早速に柏村博士御遣しにて、夜九時、来診を願ひたるに、病はほとんど去りたり、衰弱のみ也。井深氏と御相談、薬も種々に取替て、看護婦もさし図のを願ひたり。来客、石川君子。

(来信) 房州初子より書至。

二月十六日 丙申 土曜 晴。

課業例の如し。侍医柏村博士より看護婦を遣され候。病人も少しハ食事を進み候。来客、良子様より豊女御遣し戴き候。行人来る。

(二月十七日〜二十八日、記載ナシ)

(三月)

(三月一日〜九日、記載ナシ)

三月十日 戊午 日曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

(三月十一日〜三十一日、記載ナシ)

(四月)

四月一日 庚辰 月曜 曇、後雪。

(コノ日、記事ナシ)

四月二日 辛巳 火曜 晴。

朝、墓参す。午下、北白川宮、閑院宮に詣し、忌明御礼申上る。帰途、姉小路、大炊御門を訪て帰。

四月三日 壬午 水曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(四月四日〜七日、記載ナシ)

四月八日 丁亥 月曜 晴。

愛四郎四十九日二付、墓参する。来客、石山すま子、岩浪稲子、岡崎忠子。訃音、従三位松平直方殿、七日薨去。

四月九日 戊子 火曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、石川たか子、其母、石川信子、其母、大谷光演、細井芳子。本日誕生日二付、洋食の饗応する。

発信 松平直方殿え備え物、金千疋。

*備え物(供え物)

四月十日 己丑 水曜 雨。

早起。江戸川桜花を見る。二分の花也。帰。課業例の如し。来客、石山すま子。発信 滋賀県馬庭栄子え。

四月十一日 庚寅 木曜 雨、及雷鳴甚し。午下四時頃、晴。

閑院宮三殿下御馬車と電車と衝突。御車と馬と傷を受けたり。殿下には御動揺なく、安心

致す様にと御電話にて、直に桃子参殿、御見舞申上ル。

四月十二日 辛卯 金曜 晴。

早起。上野観月橋に東西の花を見る。博覧会の模様、始めて観る。

四月十三日 壬辰 土曜 晴。

泉会と校友会相談会にて、講師ハ佐々氏、婦人の趣味、おもしろく聴聞す。五時閉会。来客、岡崎忠子。此夕、津田栄子より書至。父の死去を申遣したる返書。早起。江戸川の花を見て帰。

四月十四日 癸巳 日曜 晴、風。

朝四時起。昨夜より小雨尚やまず、南風はけしく、花偏く咲出したり。朝、絹本一葉揮毫す。午前十時より下の電車にて堀はたの花を見つゝ、赤阪見付、此あたりの春色、先第一たり。閑院宮様に詣し、御息所に拝謁して、御庭の花拝見して、正午帰。鷺田菊江、退院帰校す。実にいり豆に花と云、珍らしき事。其悦無究。

*偏く(遍く) *堀はた(堀端) *いり豆(炒豆) *無究(無極)

四月十五日 甲午 月曜 晴。

運動会。生徒一同、朝八時集り、半、出門。飯田町九時の汽車にて行。新宿着。散歩して、代々木久米氏別邸に行。閑院宮三殿下も成らせられる。天気最上、風なく、運動会日和也。種々の遊び尽して、三時半より一同集りて、又散歩して、新宿より汽車にて帰。鷺田氏退院祝ひ、洋食の饗応せられる。

四月十六日 乙未 火曜 晴。細雨雷鳴、暫時にして止。

朝十時より、飯田町停車場に行。大炊家政、夫人晨子さまを待合して、十一時電車にて小金井花を見る。此行、予、石山基威、井深氏の五人連也。汽車に乗遅れて、電車にて中野迄。中野町逍遙して、汽車に乗して、花も未たしや疑ひつゝ行。豈計や、花は満開、此日最上とす。廿五年ふりにて、この花を見る。昔しとは夥しく覚えり。雲井橋詰の茶店に休憩、午下二時也。昼餐を命して、酒肴もあり、種々雑談。花見客の雑沓驚くへし。帰路、駄じやれ尽して、しらすく、国分寺に着、五時。汽車にて帰。来客、毛利国子。
*駄じやれ(駄洒落) *豈計や(あにはからんや)

四月十七日 丙申 水曜 晴。

朝、墓参して帰。来客、米国より帰朝したる藤岡氏。

四月十八日 丁酉 木曜 晴。夕景より雷鳴、雨。午下四時、偕行社行。

午下四時、愛国婦人会より、地方支部長、知事等招待す。閑院宮総裁殿下御台臨、立食の饗応ありて、点灯頃済て帰。来客、鵜飼春江母。来信、上海さゝ木曾比子。

*上海さゝ木曾比子（上海佐々木曾比子）

四月十九日 戊戌 金曜

朝、散歩して帰。

四月二十日 己亥 土曜 雨。

朝、散歩して帰。

往訪 予、泰と原氏を問て帰。

四月二十一日 庚子 日曜 晴。

姉小路伯、大炊御門晨子に誘引せられて、上野に夜のイルミネションを。実に盛景、大坂博覧会の三ばい也。売店を見て帰、九時。

四月二十二日 辛丑 月曜 曇。

本校校友会春季総会、華族会館ニテ。予等役員、朝十時より出向ル。午下一時、参集之事。会員続々来集する。楽隊ハ露台。先二年生遊戯、三年、四年と相続きたり。さしもに広き会館も立錐の地もなき迄に場に満々たり。泉助三郎一行の今様能狂言 仁王、二人かたわ、千鳥。長唄 縄やかた、勸進帳。畢而四時半、食堂開らけ、一同食事。会長祝辞を朗読す。六時全畢。実に盛会也。

*泉助三郎（泉祐三郎） *二人かたわ（三人片輪） *縄やかた（綱館）

四月二十三日 壬寅 火曜 晴。

本日休業。午下二時過より、電車にて東橋着、散歩して、墨隄新緑を觀つゝ、言問辺より蒸汽船にて両国え上り、又電車にて帰。予、桃子、鶴子、縫子、貴美子。

*東橋（吾妻橋）

四月二十四日 癸卯 水曜 晴。

来信、伯爵松方正義、同政子。

四月二十五日 甲辰 木曜 晴。

来信、伯爵松浦詮、静岡水野木庵。

四月二十六日 乙巳 金曜

課業畢る。二時より大炊家政様案内にて、予、正子と新宿御苑に海棠花をみる。新緑、遅

桜など、実に絶景。

四月二十七日 丙午 土曜 雨。 松方伯、三田自邸ニ於テ園遊会、午後二時三十分。
来客、大坂九条中島富女滞在す。独乙婦人画師来客。

四月二十八日 丁未 日曜
来客、独乙婦人種々画を見せる、九条恵子。

四月二十九日 戊申 月曜 晴。
来客、千家尊福男、山内錦子、椿しほ子、岡崎忠子。

四月三十日 己酉 火曜 晴。 閑院宮妃殿下、還御。
午下二時より松浦伯招に応ず。画会催され、東久世伯、画工五、六人、席画もあり、夕餐
にあひて、直に新橋二行。総裁殿下還御、八時十五分、奉迎して帰。重たけ、房州より帰
京。正午過、こんにやく閻魔の観音堂、火アリ、焼失す。

*重たけ(重威) *こんにやく閻魔(蒟蒻閻魔)

(五月)

五月一日 庚戌 水曜 雨。

大坂九条中島富女帰坂す。重たけ。

発信 川村緑陰氏え書及写真。

*重たけ(重威)

(五月二日、記載ナシ)

五月三日 壬子 金曜 晴。

勅祭日。すへて学校休業。朝八時より愛国婦人会本部にて遺族接待す。午下五時帰。

五月四日 癸丑 土曜

来客、大坂中島とみ、其男政二郎氏 米国より帰朝する、志賀鉄千代。

五月五日 甲寅 日曜 晴、風。

朝十時より、愛国婦人にて靖国神社詣、遺族に贈り物する。午下、能楽堂に能観世の鉢木

を見て、相摸大砲、常陸山、梅ヶ谷横綱の参拝を觀て歸。

*相摸(相撲) *大砲(大砲)

五月六日 乙卯 月曜 風。八十二(度)。

此夜、長尾氏旭川え出立に付、上野迄見立る。來客、土井早苗。咄しの席、那瀑見物を催されて、其つもりする。

(來信) 招待状、実業之日本、本月十二日午下一時。

五月七日 丙辰 火曜 雨。

朝十一時より、予、政子と同行、千家信子さま御案内にて、始て博覧会见物す。第一号、二号、三号、美術館を觀る。大坂博覧会よりは、すべて数等と覺ゆ。演舞場に劇を觀、貴賓館に休憩して歸。土井氏と同行之返事する。來信、大坂中島政二郎。

五月八日 丁巳 水曜 松方正作氏園遊会、午下一時。

(コノ日、記事ナシ)

(五月九日〜十一日、記載ナシ)

五月十二日 辛酉 日曜 実業之日本、十年紀年祝、紅葉館にて午下一時。

(コノ日、記事ナシ)

*紀年(紀念)

(五月十三日〜三十日、記載ナシ)

(六月)

(六月一日〜九日、記載ナシ)

六月十日 庚寅 月曜

來客、巖谷幽香、今富森氏。三十年賑の対面にて珍らしく、旧を話し、教場、塾、參觀したり。書至、閑院宮妃殿下、土井早苗。

*三十年賑(三十年振)

六月十一日 辛卯 火曜 晴。

朝七時より、予、重威、正子と同しく、博覧会见物する。さすかの東京、すべての設置、

よく斉ふたり。感すへし。五時帰。

六月十二日 壬辰 水曜 入梅。

来客、重たけ、万伯。

*重たけ(重威)

六月十三日 癸巳 木曜 雨。

来客、重たけ。

*重たけ(重威)

六月十四日 甲午 金曜 晴。

姉小路延子、男子出産。母子共建(健)全。

*健全(健全)

六月十五日 乙未 土曜 晴と雨。

父の正当二付、墓参して帰。来客、原富太郎氏、重たけ。

*重たけ(重威)

六月十六日 丙申 日曜 晴。

朝、散歩して姉邸に行、御出産の御児さまを見る。至極御壮建、大きい御子さま。是より姉小路の繁栄思ふへし。午下、宮城に参り、良子様と久々の御談話申上て、六時退す。

*御壮建(御壮健)

六月十七日 丁酉 月曜 晴と雨。

来客、武者小路万子、重たけ。小包、稲垣銚子より浜ゆふ二箱。

*重たけ(重威)

六月十八日 戊戌 火曜 晴雨不定。

本日より、茂木栄子の為、散歩修行二かゝる。来客、重たけ、但間さく女。書至、大坂美尾野より。

発信 岡山津田氏え菓子及書出す。

*重たけ(重威)

六月十九日 己亥 水曜 雨。

朝、散歩して帰。良子様、姉邸え御下りのよし。来客、古市幸子。米国津田より書及ヲレ
ンジ着。

発信 大阪美尾野え。稲垣銚子え。

六月二十日 庚子 木曜 曇。
朝、散歩して帰。

六月二十一日 辛丑 金曜 晴。
朝、散歩して帰。

六月二十二日 壬寅 土曜 晴。
朝、散歩。墓参して、五軒町を訪へ帰。
往訪 此夕、予、鶴子と善光寺本堂にて地藏躍を見て帰。

六月二十三日 癸卯 日曜 曇。
朝、散歩して帰。町内より頼みに応じて、正午より信州善光寺上人の一行を招く。稚児五十八人集る。愛四郎祭壇を設けて御回向あり。二時、我校より練出され、門前雑沓一方ならず。来客、姉伯、松木薫、石山すま、大炊晨子、仁科駒と孫也。

*祭壇(祭壇)

六月二十四日 甲辰 月曜 曇。 代々木志賀氏行。
朝、散歩修行して帰。約の如く、予、桃子と、電車にて代々木え行。新宿停車場、鉄千代迎に来る。同行して行。新築落成、夫人理想之築造にて、皆勝手よく出来たり。四方見晴しよき処也。庭園も広く、樹木も新らたに植たりとか。かけ樋の水も出て趣あり。庭に長松四本あり。目印になる大木也。松野祖母、竜雄、不二雄も来る。暫時にして近傍散歩して、石山氏を訪ふ。不在にて不逢帰。種々美味の饗応あり。夕餐を喫して帰。代々木の近頃の盛なる、可驚。新築立並ひたり。帰宅点灯比也。

*かけ樋(懸樋)

六月二十五日 乙巳 火曜 晴。
朝、散歩修行して帰。来客、間部末子。東京間部氏に嫁したる御礼に来る。

六月二十六日 丙午 水曜 雨。
午下より、予、重威、桃子と博覧会に行。一号、二号を観て、演舞場に久米八の技を見て、平野やに夕食して帰。

*久米八(九女八)

六月二十七日 丁未 木曜 雨。

朝、散歩修行す。来客、塩田良温氏、桑港津田より事伝もの持参。暫時対話して去る。電報、木津法城危篤しらす。再報、法城死す、葬式廿九日。一同驚愕不堪候。発信 木津え返電す、午下四時。

六月二十八日 戊申 金曜 晴。

朝、散歩して帰。午下、閑院宮に詣し、御息所ニ拝謁して、暫時談話申上而退く。木津跡見法城死去ニ付、香奠廿円を贈る。来客、別府徳子。土井氏より蜜柑三箱着。

六月二十九日 己酉 土曜 折々小雨。

朝、散歩して帰。来客、胡桃正見。

六月三十日 庚戌 日曜 晴。

朝、散歩して帰。書写す。来客、紀州新宮尾崎栄之介、重たけ。午下二時より、東郷大将を訪ふ。大将及奥様にも面謁して、木津有志者より願出候日露戦死者之碑文を願候処、速ニ御承諾ニ相成候。退而島田氏を訪て帰。晡時より鶴子と同しく上野買店に行て、買物して帰。書至、植竹政子、鮎着。木津より碑文地紙着。

発信 植竹政子。桑港津田え。木津美尾野え。尾鷲土井氏え。

*重たけ(重威)

(七月)

七月一日 辛亥 月曜 晴。 閑院宮両殿下北越御出発、朝八時廿分、上野行。

朝七時出門。上野に閑院宮両殿下之御出発を奉送申上て、帰途大学病院に茂木栄子を訪ふ。軽過頗良好。暫時咄して帰る。来客、重たけ。

*軽過(経過) *重たけ(重威)

七月二日 壬子 火曜 晴。 85(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、重たけ。陛下、博覧会へ行幸。別府静子結婚ニ付、白絹一反を祝ふ。書至、跡見春江、尾畑かつ。

*重たけ(重威)

七月三日 癸丑 水曜 晴。 85(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。書写す。書至、広島井市治郎。

*広島井市治郎(ママ)(広島井平治郎)

七月四日 甲寅 木曜 晴。86(度)。
朝、氷川神社に詣て帰。課業例の如し。書写す。
発信 広島井平氏え絵端書二枚。

七月五日 乙卯 金曜 晴。 別府金七招待、星ヶ岡茶寮。
朝、散歩。白山に詣して帰。書写す。課業例の如し。朝七時出門、泰、銚子に行。午下五時より星ヶ岡に行、別府静子、さゝ木某氏と結婚披露宴会ニ会す。盛会也。八時、めて度済て開く。書至、土井早苗。

*さゝ木某氏(佐々木某氏)

七月六日 丙辰 土曜 晴、雨。午前九時、東京博覧会褒賞授与式、第二会場、千家知事より。不参す。
朝、散歩。牛天神に参詣して帰。書至、大坂美尾野、谷山たに。

七月七日 丁巳 日曜 雨。

朝、散歩して、姉邸、及大炊氏を訪て帰。重たけ、朝一番汽船にて帰房す。安田輝子より誘はれて、明治座に行。大阪堀江大隅一行之浄瑠璃人形、久々にて終日面白く見て帰。来客、田辺妻、古屋朝子。来信、美尾野より呉服券と絹本、小包着。

*重たけ(重威) *浄瑠璃人形(浄瑠璃人形)

七月八日 戊午 月曜 雨。
朝、家中散歩、修行す。宮島金雄、過ル六時死去のよし、新聞にて見る。可驚。来客、別府徳子。

発信 大阪美尾野え絹本返す。

往訪 伊皿子十番、宮島氏に行。弔詞を伸て帰。

*六時死去(六日死去)

七月九日 己未 火曜 雨。
朝、家中散歩、修行す。

七月十日 庚申 水曜 雨。
朝、家中修行、一周間満願。

発信 尾畑かつえ小包にて、外、画三枚、たにさく六枚。平田貞子え。

*一周間満願(一週間満願) *たにさく(短冊)

七月十一日 辛酉 木曜 雨。

課業例の如し。桃子、朝より三ノ谷へ行、一泊。来客、小池清、原氏使に来る。
発信 清国佐々木氏え筆を贈ル、小包にて。

七月十二日 壬戌 金曜 雨。

早起。散歩、修行す。昨夜一、二、三時頃迄の大雨、実に盆を復(覆)すおそろしき雨也。
*盆を復す(盆を覆す)

七月十三日 癸亥 土曜 雨。

家中散歩、修行。泉会、集者四十五人。講師、中島観琇。書至、跡見春江より。

七月十四日 甲子 日曜 朝雨、正午より晴たり。

朝九時より出門。中元に廻る。山内氏、三条家、石山氏、閑院宮、北白川宮、大炊氏、姉伯。午下三時帰。来客、石山基陽。

七月十五日 乙丑 月曜 晴。

朝、散歩。墓参して帰。課業例の如し。午下五時より原徳会始り、演題十数番、仮装舞踊、種々なる趣向。十時済。来客、広田武子。宮城姉小路え使出す。

発信 婦人世界え。
*原徳会(厚徳会)

七月十六日 丙寅 火曜 晴。

朝、散歩、修行す。来客、春日局頌徳会幹事己野義郎。

七月十七日 丁卯 水曜

微恙にて臥。

七月十八日 戊辰 木曜

微恙。課業を休む。

七月十九日 己巳 金曜 雨。

微恙にて臥。東郷大将より御揮毫もの落成申来る。

七月二十日 庚午 土曜 晴。

微恙全快。課業畢る。生徒一同運動場に集めて、校長訓辞申渡して授業納めをなす。塾生も続々帰省す。

七月二十一日 辛未 日曜 土用太郎。晴。
朝、散歩して帰。書写す。十一時より、予、桃子と青松寺に薫風会ニ会す。第一会開会、盛也。来客、姉伯。

七月二十二日 壬申 月曜 土用二郎。晴。
朝、散歩して帰。書写す。九時より東郷邸に行。鉄子夫人と閑談。書を戴て帰。帰途、五軒町に暑中見舞ふて帰。

七月二十三日 癸酉 火曜 土用三郎。晴。91(度)。
朝、散歩して帰。書写す。正午、弥生町堀田伯に法筵を開かるゝに付、予、桃子と同行。五時済て帰。帰途、大学病院に茂木栄子を訪而帰。来客、古屋朝子、不在ニ付不逢。
往訪 角田氏に今井千枝子を訪テ帰。

七月二十四日 甲戌 水曜 曇。寒。起床四時。
朝、散歩して帰。書写す。
発信 木津跡見及美尾野え、書及小包、東郷大将書、反物を出す。
往訪 千家男、志賀氏、田中氏、島田氏。

七月二十五日 乙亥 木曜 曇。70(度)。起床四時。
朝、散歩して帰。書写す。紀州尾崎氏、書至。大坂三輪氏より昆布及へつ味噌着。
*へつ味噌(鼈味噌)

七月二十六日 丙子 金曜 晴。70(度)。起床四時半。
朝、散歩して帰。書写す。揮毫ものす。鷺田、今朝鎌倉行、夜帰。来客、重たけ来り、今日、菊、駒女、呼て遊ぶと言。午下、五軒町に行。日晡帰。来客、玉枝、斎藤淑子之石碑之書を渡す。

往訪 五軒町を訪ふ。
*重たけ(重威)

七月二十七日 丁丑 土曜 晴。起床四時半。
朝、散歩して帰。書写、揮毫す。来客、石山すま子、石山吉子、基弘、浦四三子、橋本綾子。

七月二十八日 戊寅 日曜 晴。89(度)。起床四時。
朝、散歩して、酒井伯を訪て帰。書写、揮毫す。来客、重たけ。

*重たけ(重威)

七月二十九日 己卯 月曜 晴。89度。起床三時。
朝四時出門。予、桃子、鶴子、縫子と同しく入谷に行。朝、秋七草五、六鉢を買而行。上野博覧会福引の日とかや、電車皆あふれ、上野通り八人の土手を築きて由島に行事出来ず。巡査は騎馬にてせいし居れり。実に可驚。本日十五万人の入場者なるへしと云。来客、裏松千代子、仁科駒。

*由島(湯島) *せいし居れり(制し居れり)

七月三十日 庚辰 火曜 晴。90(度)。起床五時。
書写す。

発信 廿一軒え書出す。

七月三十一日 辛巳 水曜 晴。起床四時。

朝、散歩して帰。書写す。揮毫ものす。

発信 十二軒え書出す。

(八月)

八月一日 壬午 木曜 起床四時。

朝、散歩。墓参して帰。書写す。

八月二日 癸未 金曜 晴。起床四時。

朝、散歩して帰。書写す。晩景より、予、桃子、鶴子、縫子と、上野わたり散歩して帰。来客、岡崎忠子。

*上野わたり(上野辺り)

八月三日 甲申 土曜 雨、又晴。起床四時。

朝、書写す。来客、重たけ、靖子を拉して帰。正子、早苗、暑中見舞に出て、夜に入て帰。
*重たけ(重威)

八月四日 乙酉 日曜 晴。起床五時。

朝、書写す。正子、代々木石山氏へ行。来客、塩田良温、八日桑港え出帆、暇乞に来る。晴天。折々驟雨あり。
発信 十八軒え書を出す。

八月五日 丙戌 月曜 晴雨不定。起床五時。

朝九時より、閑院宮様ニ詣し、御息所様と暫時御談話申上て退ル。帰途、裏松子を訪ふ。朝貌大いさ四寸七部(分)、実に見事の出来、朝貌には珍らし。暫時にして帰。

*四寸七部(四寸七分)

八月六日 丁亥 火曜 晴。

朝、散歩して帰。書写す。

発信 塩田氏桑港行八日二付、津田え贈り物事伝ル。三井物産会社え。

八月七日 戊子 水曜 晴。風あり、すゝし。起床四時。

朝、散歩して帰。書写す。来客、橋本太吉氏。有約、裏松子に行。予、桃子と、朝七時より出懸ける。朝貌の真盛りと云。御座敷一はいに陳列四十余鉢、実に見事。かゝる大りんの花ハ此主の培養の然らしむる処也。朝貌の来客多し。其内、泰、石山氏も来りて、十一時帰。

八月八日 己丑 木曜 晴。92(度)。起床四時。

朝、散歩して帰。書写、揮毫ものす。来客、千家信子、江副静子。予、午下より五軒町に行。日暮て帰。暑氣第一、実に堪かたき炎熱也。立秋日。

八月九日 庚寅 金曜 朝、雨一しきりにて晴。92(度)。炎熱、昨の如し。起床四時。

朝、散歩して帰。書写、揮毫ものす。

八月十日 辛卯 土曜 92(度)。炎熱、昨の如し。起床四時。

朝、散歩して帰。書写す。来客、重たけ、いく子。午下二時頃より大雨盆を覆す。又大雷。近所に落雷有りと思ふ、二度。天又晴。

*重たけ(重威)

八月十一日 壬辰 日曜 晴。炎熱、実に絶かねたり。けふは少し風あり。

昨十二時より大雨盆を覆す。又辟歴一声可驚。又近辺に落雷ありと思ふ。今朝の新聞に、昨の雷、盲啞学校に、及竹早町とに落雷す。来客、宮原六之介氏、午前より午後三時迄にて帰。米国津田栄子より端書にて復書着、七月廿三日出。

*辟歴一声(霹靂一声)

八月十二日 癸巳 月曜 晴。熱甚。

朝、散歩して帰。書写す。朝より書類虫干かた付ル。来客、重たけ。

*重たけ(重威)

八月十三日 甲午 火曜 晴。

朝、散歩して帰。書写す。わし田氏、朝九時汽車にて鎌倉へ行。予、微恙アリ。直二医師を呼て診★(目十察)を乞ふ。服薬す。

発信 七軒え書出す。

*わし田氏(鷺田氏) *診★(目十察)(診察)

八月十四日 乙未 水曜 小雨時々。

終日臥蓐す。快復。靖子、田舎へ行。泰、栗橋辺え写生二行。宮沢、帰省す。来客、植竹政子、安田暉子。

八月十五日 丙申 木曜 小雨時々。風すさまじ。

朝、書写す。昨十四日午後一時、露探前田清次、今村勝太郎に殺さる。来客、重たけ。

*重たけ(重威)

八月十六日 丁酉 金曜 天晴なから、時々小雨。

昨夜不眠、夜を明したり。桃子微恙。井深氏来る。朝、散歩して帰。書写す。閑院宮姫宮御三方より御書及真くわ瓜戴く。

発信 小田原閑院宮様え御返書さし上ル。

*真くわ瓜(真桑瓜)

八月十七日 戊戌 土曜 起床四時。

朝、散歩して帰。書写す。揮毫ものす。

八月十八日 己亥 日曜 晴。起床四時。

予、朝、書写す。予、桃子と同しく、七時電車にて青松寺に詣して、北野氏の説教を聞て、十二時過行。

八月十九日 庚子 月曜 起床四時。

朝、散歩して帰。書写す。

八月二十日 辛丑 火曜 晴。

予、泰と同しく、朝八時廿分急行にて横浜に行。原氏の迎車来りて、直に三ノ谷に行。一泊す。夜、挙家梅林茶亭に月を見る。十二日の月清光、亭の流れに秋草の花盛り、水の流るゝ音に虫の音をまじえて、月夜の風光又なきけしきに、九時頃迄。そ(逸)れて海岸の

月をみて、是又爽絶。十一時臥。此朝、桃子、鶴子、六時の汽車にて鎌倉へ行。日帰りする。

家の富子の富のみか海山の気色の富八世にたくひなき

*そして(逸れて)

八月二十一日 壬寅 水曜 晴。夜十時頃より雨。

朝、四時起きて海岸及梅林散歩す。明かたの秋草露を含みて、秋の粧ひを帯て一しほみるべく、太神宮の社立派、待春閣も古雅、散歩頗妙。八時四十分急行にて帰。晚景、山内八重子、原田照子、藤井瑞枝来り、是又奇遇也。塾生時代の咄しにて、十時皆帰。

八月二十二日 癸卯 木曜 雨。雨、時々しきり也。

朝、書写す。来客、姉小路伯。

八月二十三日 甲辰 金曜 雨。照りふりさたまらず。起床四時。

朝、散歩して、五軒町を訪て帰。書写す。来客、大沢亀子、猪太郎。訃音、五十嵐駒、今暁三時死去。

八月二十四日 乙巳 土曜 雨。

朝、書写す。宅中運動、修行す。暴風雨の(以下記述ナシ)。石山氏岡田え使す。香奠三円。来客、重たけ。

*重たけ(重威)

八月二十五日 丙午 日曜 雨。起床四時。

朝、宅中運動。畢而書写す。

発信 戸田富子夫人え返書。大阪吉宗栄え手本二、小包。閑院様おたねえ手本一、小包。

八月二十六日 丁未 月曜 天先回復、然し時々雨、又晴。起床四時。

朝、宅中運動修行。書写す。三井物産員千田氏、明廿七日桑港え出帆二付、津田弘孝初誕辰の祝ものを事伝ル。

八月二十七日 戊申 火曜 雨。雨、終日終夜降通したり。

朝、宅中運動、修行。書写す。各地水害。埼玉県利根川堤防決潰。長野県各川出水、山崩、家屋流失。茨城県利根川上流堤防決潰。栃木、水害ハ大谷、鬼怒、渡良瀬。日光、山崩アリ。東京隅田川堤破る。綾瀬南の辻堤防甘間崩壊せしたため、向島一円騒動。先年の出水にも尚増したる有様也。千住大橋落つ。千住発電所浸水したる為、電気送りがたし。所々電氣薄暗く成る。六郷川出水の為、大森、蒲田、浸水。横浜、線路開通の見込なし。東海道、

函（箱）根より東、洪水を蒙りたる区域頗る広き。東京府近地に就てみるも、玉川沿岸の如き、四十八年来の大水なりと云。函館の大火、廿五日より廿七日午前八時鎮火。函館、七分通焼失すと云。

発信、各地、水見舞を出す、五十余家。

*茨木県（茨城県） *函根（箱根）

八月二十八日 己酉 水曜 晴。88（度）。

朝、室内運動、修行。書写す。揮毫もす。橋場小松宮様、三条信受院さまも御立退二相成。来客、五軒町治子、石山すま子、北川ませ。

八月二十九日 庚戌 木曜 晴。90（度）。起床五時。

朝、散歩、修行して帰。書写す。来客、重たけ。

*重たけ（重威）

八月三十日 辛亥 金曜 晴。88（度）。起床四時。

朝、電車一周して帰。書写す。各地水害表、東京、京都、大坂、埼玉、群馬、茨木、山梨、静岡、長野、山形、福島、宮城、兵庫、千葉、神奈川、福知山。京浜間愈復旧。電信電話線復旧。重たけ一行、房州に帰る。鷺田氏、鎌くらより帰。

*茨木（茨城） *重たけ一行（重威一行） *鎌くら（鎌倉）

八月三十一日 壬子 土曜 晴。85（度）。起床三時。

朝、散歩して帰。書写、揮毫す。朝、月清く如昼。

（九月）

九月一日 癸丑 日曜 雨。雨、後晴。起床四時。

朝、墓参して帰。書写す。桃子、新橋九時之汽車にて横須賀に行。姉崎氏洋行二付、予ノ絵端書一タースを送る。

九月二日 甲寅 月曜 二百十日。至極静穏、全国も同様、先安心。晴。起床五時。

朝、園中修行す。書写す。江副氏より電話にて、本日日下部帰朝着船の趣知らせらる。新橋へ行つつもりにて朝より待たるに、漸午下六時前五分に、六時十七分新橋着の由、電話にて申来。とても十七分間にて八間に合すとて止る。桃子、横すかより夜九時半帰る。

*横すか（横須賀）

九月三日 乙卯 火曜 晴。

本日、ルーマチにて井深氏に診★(目十察)を乞ふ。桃子、鶴子、日下部米子昨日帰朝二付、訪ふ。虫干す。米国津田栄子より端書着。八月十四日出。

発信 大分県小栗栖善丸氏え書及金二円を贈る。

*診★(目十察)(診察)

九月四日 丙辰 水曜 晴。起床五時。

朝、散歩、修行。書写す。虫干す。

発信 岡田きんえ手向草を贈る。

九月五日 丁巳 木曜 晴。起床四時。

朝四時、桃子彗星をみよとしらせたり。真東廿八日の月の下二間計の位置によくみえたり。

朝、散歩修行して帰。書写す。寄宿生三十六人帰塾す。泰、千葉地方え旅行す。

九月六日 戊午 金曜 晴。起床四時。

朝、散歩して帰。書写す。新生生六名。来客、箕作源八氏夫人、其嬢と入学す。同、志賀鉄千代夫人。

九月七日 己未 土曜 晴。

朝、散歩して帰。書写す。来客、大炊家政、中島ゆき子、其娘千代。入塾、間々田幸子。発信 阿部しま子え。松瀬俊雄氏え写真共。石川たか子え。平田さた子え。

九月八日 庚申 日曜 晴。起床四時。

朝、散歩して帰。書写す。終日揮毫ものす。

九月九日 辛酉 月曜 晴雨不定。起床四時。

朝、氷川神社に参詣して帰。書写す。課業例の如し。

九月十日 壬戌 火曜 氷川神社祭礼。天気晴天、俄然夕立、雨已に晴て又降。晴雨定まらず。85(度)。起床四時。

朝、散歩して、小日向火事見舞かてら松平容大様え行。御主人御夫婦千葉県御転地の御留守中の出来事にて、御家来大因難のよし。御門前の樹木に火か付たるに驚かれたる也。帰宅。課業例の如し。来客、加藤幸子。来客、鷺田氏の妹鈴木氏、其娘と暇乞に来る。明日帰国の途に付くと云。鷺田の病気に付、種々心配致され、医師ハ帰国か第一番の上作と申される。本人ハほとんど不聞、致し方なく、此近方にて別に家を借りて養生すると云事に取究る。

*大困難（大困難） *上作（上策） *近方（近傍） *取究る（取極る）

九月十一日 癸亥 水曜 晴。70度。起床四時半。

朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。朝よりはしめて涼気を覚ゆ。本年七月より此かた八十度以上、一日も下りたる事なし。実に日々流したる汗ハ何斗なるか、夜るとても同じ事、すゝしと思ひし事なく、かゝる好順気は候はずとて、暑さながらも豊作を楽しみたり。それに水害所々に起りたるハ如何。

九月十二日 甲子 木曜 二百廿日。晴天無風、至極結構、可歎喜。晴。起床四時。

家中運動して書写す。課業例の如し。来客、大坂美尾野忠兵衛、其娘、日下部夫婦 六年賑珍らしく暫時談話す、古屋朝子。

発信 大日本歌道奨励会え。旅順武内いく代。婦人世界え。財部梅子え。

*六年賑（六年賑）

九月十三日 乙丑 金曜 晴。起床四時三十分。

朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。暁三時前、すり鐘。本郷菊坂勸工場、火アリ。萌上る火、見事也。午下、田村氏を訪て帰。

*萌上る火（燃上る火）

九月十四日 丙寅 土曜 晴。起床四時。

朝、散歩。五軒町を訪て帰。書写す。課業例の如し。万里伯北海道え出立二付、桃子上野迄見立る。午下、泉会。集者五十五人。瀬川博士欧米漫（漫）遊所感之講演、面白く聴聞す。来客、大坂美尾野、帰坂之暇乞す。夜十一時頃、久堅町火。

*欧米漫遊（欧米漫遊）

九月十五日 丁卯 日曜 晴。70（度）。起床四時。

朝、墓参して帰。久堅町鷺田氏を問て帰。書写す。正午より、予、正子と同しく芝薫風会に行て帰。来信、米国津田弘視より。渡辺愛子より梨子着。

発信 函館田中静子え火事見舞、着物、小包にて出す。

*芝薫風会（芝薫風会）

九月十六日 戊辰 月曜 晴。起床四時半。

朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。

発信 新宮小畑勝え返書。

九月十七日 己巳 火曜 雨。起床五時。

昨夜より雨。書写す。課業例の如し。

九月十八日 庚午 水曜 雨。

朝より雨甚し。十一時頃、門前迄水浸して来る。生徒、一昨間早く帰す。裏門より大廻りして行く。迎ひ、裏共浸水甚しく、夜十時頃迄ハ門前賑々し。月ハよし。一面の川となる。五時頃より雨晴たり。

*一昨間早く(一時間早く) *迎ひ、裏共(向ひ裏共)

九月十九日 辛未 木曜 晴。

課業例の如し。

九月二十日 壬申 金曜

朝、散歩して、墓参。わし田氏を訪て帰。課業例の如し。書写す。

小池道子使来。桑港九月三日出書着、津田弘視、栄子より。

発信 台湾甲斐静子、小池道子、来栖貞子、吉宗栄子え。

*わし田氏(鷺田氏)

九月二十一日 癸酉 土曜 雨。起床五時。

朝より雨。終日降通したり。書写す。来客、姉小路公俊御宮参りニ付、信子様同道にて御出になり、よく笑ひ何か御咄しも出来、大く壮健也。暫時にして御帰りに相成たり。多豊尾。新瀉遠藤経教氏、書及絹本たにさく着。

*新瀉遠藤経教氏(新瀉遠藤経教氏) *たにさく(短冊)

九月二十二日 甲戌 日曜 雨。

書写す。揮毫ものす。

九月二十三日 乙亥 月曜 晴。

課業例の如し。書写す。正子、早苗、御所御局に参る。閑院宮妃殿下、島根え御台臨あらせらるゝに付、朝七時四十分急行ニテ御出發、御見立申上て帰る。

九月二十四日 丙子 火曜 秋季皇霊祭。晴。

朝より、祖先祭り執事す。それより墓参して、鷺田氏訪て帰。来客、重たけ、北村、俵松子渡韓ニ付暇乞に来る、石山基陽、石山基弘、吉子、伴子、浜口八重子。

*重たけ(重威)

九月二十五日 丁丑 水曜 雨。起床五時。

朝、家内散歩。書写す。
岩弥氏を祈願す。

九月二十六日 戊寅 木曜 晴。夜、雨ふる。起床五時。
課業例の如し。来客、岡崎忠子。

九月二十七日 己卯 金曜 晴。起床五時。
朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。来客、石山すま子。
発信 生源寺いさを、武内いく代、石川たか。

九月二十八日 庚辰 土曜 晴。

午前四時、房州万里小路智子より、直房キトクの電報来。桃子、直に旅装して六時出帆す。
房州桃子より午下三時電話、今晩三時死去、臨終間ニ逢すと云。来客、重たけ。
*重たけ(重威)

九月二十九日 辛巳 日曜 晴。起床四時半。
朝、白山神社に詣して帰。書写す。午下、わし田氏を訪ふ。日に増して衰弱もひとく、昨日水を取りたると云。暫時にして帰。

発信 房州李子え。

*わし田氏(鷺田氏)

九月三十日 壬午 月曜 晴。起床五時。
朝、墓参して帰。課業例の如し。書写す。房州桃子より書至。

(十月)

十月一日 癸未 火曜 晴。起床五時。
朝、墓参して帰。課業例の如し。始て袷を着す。

十月二日 甲申 水曜 晴。夜、雨ふる。起床五時。
朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。来客、志賀氏夫婦。本日より科外講義とて、地理書、第一、第三水曜日午後一時より二時迄、三、四、五年生皆。畢而御夫婦に御合のものを出す。已而帰らる。秋田千田勇より露漬一箱着。京都高橋鶴巻より松茸一籠。一周間之願畢。

発信 秋田千田氏え返書出す。

*一週間(一週間)

十月三日 乙酉 木曜 雨。午下、天晴。起床五時。
朝、雨にて散歩せず。課業、桃子之分共。上海佐々木曾比子より、唐墨美箱入着。今夕、松永氏より梨子着。十七日間遠着にてフハイ甚し。再ひ願を起す。

*遠着(延着) *フハイ(腐敗)

十月四日 丙戌 金曜 晴。70(度)。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下三時頃、万里伯今日帰京、明日一番船にて帰房之由、桃子今一週間滞在、申来る。

往訪 午下、閑院宮に詣し、御息所御不在にて直に去る。石山氏を訪て帰。

*今一週間(今一週間)

十月五日 丁亥 土曜 晴。

朝、散歩して帰。書写す。来客、函館加藤八重子、父、其妹。

発信 平田貞子え。さゝ木曾比子え。来栖貞子え。山岡基一え。東洋婦人会え。

*さゝ木曾比子(佐々木曾比子)

十月六日 戊子 日曜 雨。

朝、散歩して帰。書写す。来客、函館大矢静子、西村静子 此度門司に出張のよしにて暇乞に、終日揮毫ものす。

発信 新瀉遠藤経教え小包にて絹本及短冊出す。

*新瀉(新瀉)

十月七日 己丑 月曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

訃音、従一位勲一等中山慶子五日薨去、来ル十四日午後一時音羽護国寺ニ於テ神葬。
往訪 午下、青山一位御局薨去ニ付御悔みに参る。御柩料金千疋を備える。

*備える(供える)

十月八日 庚寅 火曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。法華経第一序品、書写し畢。課業例の如し。来客、田村花井、此度長崎
転任ニ付、暇乞に来る。桃子、夜八時房州より帰宅。

岩崎氏二週間祈願畢。

*二週間(二週間)

十月九日 辛卯 水曜 雨。起床五時。

朝より雨降しきる。表門前浸水す。訃音、万里小路直房去月廿七日死去、来ル十一日午後一時、芝山内妙定院ニ於テ仏葬相営候。

十月十日 壬辰 木曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。至誠院殿二七日法事ニ付、午下早々、予、鶴子と芝明定院に参詣す。四時過帰。閑院宮様より御知らせニ付、夜酒井様ニ行。伯爵忠興様、夏子様とも御重病のよし。御見舞申上たれと、智恵子殿下にも御対面御謝絶のよしニ付、御容体のみきゝて帰。

酒井御夫婦祈念する。

*芝明定院(芝妙定院)

十月十一日 癸巳 金曜 晴。起床五時。

同。朝、白山参詣して帰。課業例の如し。午下、芝明定院に行。来客、井深氏、水野氏よりの画を依頼に来る。

往訪 午下一時半より芝明定院に行、会葬す。四時帰。

*芝明定院(芝妙定院) *芝明定院(芝妙定院)

十月十二日 甲午 土曜 晴。起床五時。

同。朝、白山へ参詣して帰。泉会。井上哲次郎博士、婦人感化と云題にて演舌せられたり。四時畢。直に三井得右衛門氏行。誕生日ニ付素謡会。後、余興にて面白く、九時帰。来信、津田栄子より。九月廿三日出、本日着。

十月十三日 乙未 日曜 雨。朝、上野行。

朝、宅中散歩す。八時出門。上野停車場に行。閑院宮妃殿下、愛国婦人埼玉支部総会に御台臨奉送。来客、御寺御所岩野慈栄様、祖瑠と久々にて。御昼上る。已而帰られる。

*祖瑠(祖琉)

十月十四日 丙申 月曜 雨。

中山一位局御葬送ニ付、休業す。宅中散歩す。来客、万里小路君子、芳房、橋本縫子。九条中島一治より松茸二籠着。発信 旅順武田氏え。上海さゝ木氏え。大坂吉宗氏え。

*旅順武田氏(ママ)(旅順武内氏) *上海さゝ木氏(上海佐々木氏)

十月十五日 丁酉 火曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、岡田八重子、台湾小畑幾恵 其娘入塾す。
発信 木津唯専寺へ返信。実業之日本へ。

十月十六日 戊戌 水曜 晴。起床四時。
朝、白山に参詣して帰。課業例の如し。

十月十七日 己亥 木曜 晴。起床五時。

朝、白山に参詣して帰。午下一時より、弥生町堀田家に行。直ニ酒井家より電話にて、夏子様御危篤のよしニ付、直に堀田家より酒井家に行。夏子様御枕辺に参り、御様子を伺ふ。花蹊も御側に居り升と申せは、よく御承知に相成。今御臨終の時に、子供の事を能々御たのみ申と伯爵え仰せられて、御自身に手を合せて、御心静に御往生に相成たり。実になけきても猶余りあり。只々涙のみ。御家令近藤氏より御依頼に、御親友の方々え御知せをとて、直に帰宅、方々え電話にて知らせる。池田愛子、千家信子、江副静子、来りて相談する。

往訪 岩崎弥之助男、見舞に行。早苗さま、松方茂子さまニも逢ふ。田村氏を訪て帰。

*御たのみ申(御頼み申) *なけきても(歎きても)

十月十八日 庚子 金曜 晴。起床三時。

朝、白山え参詣して帰。課業例の如し。来客、大久保高明、万朝の服部桂子記者。婦人画報写真師来り、五年遊戯、点茶、琴の撮影する。

十月十九日 辛丑 土曜 晴。起床四時。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下、予、鶴子と同しく、芝青松寺ニ参詣して帰。米国津田より、弘孝初誕生日、親子三人の写真着。房州重たけより書至。同人鼻血にて困難のよし申来る。

十月二十日 壬寅 日曜 晴。

朝、散歩。五軒町を訪て帰。久々にて琴曲温習会執行。十時始り五時畢。予、〇時より早苗田大学廿五年祝典ニ付招待せらる。大隈伯銅像除幕式執行。畢而広場にて式辞、高田氏。大隈伯演説。続テ来賓演説。畢而伯庭園ニテ園遊会。立食。来賓二万人、式場満々、盛也と云へし。五時帰。夜七時、井深より使来。わし田病篤し。直ニ桃子と来られ度、又国元え電報ヲト云。予、直ニ行て看る。時、水を取る。先々今何処と云事なくして、九時帰る。来客、岡崎忠子、其孫女二人。大矢静子。

*早苗田大学(早稲田大学) *わし田(鷺田) *今何処(今如何)

十月二十一日 癸卯 月曜 晴、雨。雨後満月、殊に清し。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下二時、雨、已而晴。来客、安田暉子、浦四三子。美濃青木氏より松茸着。

往訪 午下七時より酒井邸に行。今夜の御暇乞申上て、九時帰。

十月二十二日 甲辰 火曜 晴。

朝、墓参して帰。午下一時より、予、桃子、安田暉子、浦四三子と同しく、谷中祭場に至る。貴婦人扣場にて暫時休憩。其中祭場に至り、玉串をさゝけて帰る。実二天晴朗と申、盛なる御葬式也。此盛葬を見るもたゞ涙のみ。四時帰。

発信 平田氏、佐々木氏え。武内氏。

十月二十三日 乙巳 水曜 雨。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十月二十四日 丙午 木曜 雨、又晴。起床四時。

宅中運動。課業例の如し。

十月二十五日 丁未 金曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

発信 南郷氏え弔詞。

十月二十六日 戊申 土曜 晴。起床四時。

生徒遠足会執行。通学生、朝七時半迄に上野停車場に集る。塾生一同拉して六時出門。上野に集る。七時五十分汽車にて大宮旅行。天殊に晴朗、春三月の如し。

十月二十七日 己酉 日曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。

十月二十八日 庚戌 月曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下早々、予、鶴子と同しく、学習院女子部運動会二往而帰。帰途、三条家を伺て帰。

十月二十九日 辛亥 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。朝、御所にて、大炊家政子より電話にて、すま子大病危篤のよし。直に正子行。急劇なる腸胃かたるにて、井深を迎へる。直に行。井深氏、大に功を奏したり。先々コチラ者となる。予、にしめ、御結ひ拵へて、重詰持て行。病人少しよろし。夜に入て側の人々より、早く帰りくれとの事にて、直に帰。正子一宿。

*腸胃かたる(腸胃カタル) *コチラ者(此方者)

十月三十日 壬子 水曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

発信 大坂中島え小包物、書状。秋田千田氏え。山形県石沢氏え書及小包。

十月三十一日 癸丑 木曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。長野県南安曇郡三田村三沢彦市え碑文を送る。

発信 いせ平田。房州あとみえ。上海さゝ木氏え。

往訪 芝明定院に、直房子の五七日忌に参詣して帰。

*いせ平田(伊勢平田) *房州あとみ(房州跡見) *上海さゝ木氏(上海佐々木氏)

*芝明定院(芝妙定院)

(十一月)

十一月一日 甲寅 金曜 晴。起床五時。

朝、墓参して帰。課業例の如し。泰、石山同行、日光観楓ニ朝七時半汽車ニテ行。一泊。

往訪 原町酒井伯を訪ふ。御病も追々によろしき御様子也。暫時閑話して帰。伊集院、中条も居られ候。

十一月二日 乙卯 土曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。

十一月三日 丙辰 日曜 天長節。朝晴、後雨。

朝九時、生徒一同参集。十時、祝典執行す。第一、生徒一同君か代唱歌。第二、校長勅語。

第三、天皇后宮兩陛下万歳。畢而一同ニ茶菓、柿を贈ル。大賑々敷、十一時、式全畢、退散。本日ハ巢鴨宮本氏え塾生一同散歩之筈、雨にて中止。

十一月四日 丁巳 月曜 雨。終日、雨絶間なく降りしきる。起床五時。

課業例の如し。

十一月五日 戊午 火曜 雨。起床五時。

課業例の如し。

往訪 午下、わし田氏を訪て帰。

*わし田氏(鷺田氏)

十一月六日 己未 水曜 曇。四時頃より雨。
課業例の如し。

往訪 午下、予、弘と、公設美術会ニ絵画を觀て帰。

十一月七日 庚申 木曜 雨。

課業例の如し。來客、石山基陽。本日長尾数子帰旭二付、正子、基威、上野迄見送られる。
発信 大坂吉宗、清国さゝ木え。生源寺え御手本出す。

*清国さゝ木(清国佐々木)

十一月八日 辛酉 金曜 晴。起床五時。

朝、散歩して帰。課業例の如し。來客、玉枝。三条高子、同篤子君え御結婚の御祝ひ、白縮緬一反、松魚一箱つゝを上る。

十一月九日 壬戌 土曜 晴。起床五時。

午下一時半より、泉会員と同行、谷中酒井夏子様墓参する。会する者三十人。三時半解散。
跡見玉枝え花瓶一對を、建築祝ひを贈る。山形鈴木峰江より鮭糟漬着。

発信 婦人世界え。

十一月十日 癸亥 日曜 晴。起床五時。

朝九時より、觀世に能をみる。田村長子より誘れ、久々にておもしろく。四時より玉枝方え行。新築披露会二行。暫時にして帰。

十一月十一日 甲子 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十一月十二日 乙丑 火曜 晴。

朝十時の汽車にて、予、川口を共に連て、横浜三ノ谷原氏に行。終日主人の帰りを待て、夕食迄も呼れて、馬車にて茂木氏を訪て、來ル廿五日集會に御出席を乞て帰。來客、植竹兼子、其父と。

*共に(供に)

十一月十三日 丙寅 水曜 晴。

散歩して帰。課業例の如し。葉室伯より招かれ、予、桃子と同道にて、午下二時より行。御庭の菊花、すべて後室の作られたるよし。大く見事に咲出たり。其上御馳走も結構にて、相客裏松千代子、万里栄と也。九時帰。來客、茂木栄子。

十一月十四日 丁卯 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。原春子、るいす、来る。午下早々芝明浄院ニ参詣す。万里小路直房殿四十九日法事ニ逢ひて、御招により三河やに洋食を饗せられ、夜九時帰。桃子、中村元嘉え行。旅行中、不逢而帰。

*るいす(ルイズ) *芝明浄院(芝明妙定院)

十一月十五日 戊辰 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

来客、大阪吉井順、外に吉井才造家内舎弟中島や丑三郎。

十一月十六日 己巳 土曜 晴、雨。

朝、散歩して帰。本日酒井伯夫人夏子三十日祭ニ付、午餐招待を受け、午前十一時より伺ふ。夫人計の客にて、御祭典に逢ひ、参拝後、御飯済て、御庭の菊花見事の出来。御庭散歩す。此時、雨降り出して、四時退去す。

十一月十七日 庚午 日曜 曇、又雨。

芝青松寺行ハ雨にて不往。正子のみ行。終日揮毫ものす。

発信 房州跡見いく子え菓子出す。

十一月十八日 辛未 月曜 雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。此日、井深氏よりわし田の様子悪しきよし申来り、挙家出向。予も行。菊枝ニ、誰も誰もみな側に居る、心慥ニ持つへしと云。御礼も申上度たいか口がきけぬと云。気ハ慥かなから、手も氷の如くにて、午後六時三十分、遂ニ往生をとげられる。予ハ帰宅す。外の者ハみな通夜す。わし田の親しき方え訃音を出す。国えも電報ニテ呼寄せたれと、跡をたのむの返電也。

*申上度たいか(衍)(申上度か) *わし田(鷺田)

十一月十九日 壬申 火曜 雨。

課業例の如し。わし田の死去ニ付、それ〳〵準備ニいそかし。通夜の人々十五人。光円寺より僧も来りて読経す。終日の雨甚し。

*わし田(鷺田)

十一月二十日 癸酉 水曜

課業例の如し。午下一時より、李子、石山氏、看護婦、頭の治郎吉附添て、遺核を落合火葬場に送る。

*遺核(遺骸)

十一月二十一日 甲戌 木曜 曇。
課業例の如し。午下二時より光円寺二行。朝、正子、李子、石山基威、灰葬二行。骨上ヶ
テ光円寺におさめる。午下二時半、仮葬儀を執行す。会葬者百廿人余。実に盛なりと云。
四時後帰。

十一月二十二日 乙亥 金曜 雨。

課業例の如し。来客、今城友子、田中邦子、橋岡氏。李子、わし田氏跡仕舞二行。朝七時
出門、新橋二行。閑院宮妃殿下、長崎愛国婦人総会ニ成らせられる。奉送いたして帰。

*わし田氏(鷺田氏)

十一月二十三日 丙子 土曜 雨。起床六時。

朝、中村歯医師二行。糸切歯ニ金を巻付ル治療畢る。わし田一七日二付、光明寺に参詣し
て帰。来客、嘉山梅子、万里栄。

*わし田(鷺田) *光明寺(光円寺)

十一月二十四日 丁丑 日曜 晴。代々木久米氏行。

朝十時過より、予、鶴子と同じく、代々木久米氏に行。庭園悉替出来上り、菊花の会。園
遊をして、野立、能楽堂に能二番、其外囃子、独吟、一調等数番。夜に入て帰。

*悉替(悉皆)

十一月二十五日 戊寅 月曜 晴。午下一時頃小雨にて、已に晴たり。上野精養軒行。

課業例の如し。十二時より上野精養軒に趣く。跡見学校改革ニ付集会す。発起人及委員八
名共御出席にて、坐長千家尊福男、趣意書ニ付演舌島田三郎氏。満席異義なく一致す。畢
而庭中にて撮影す。又楼上にて茶菓等にて、五時退散。

*趣く(赴く) *異義なく(異議なく)

十一月二十六日 己卯 火曜 晴。

朝、散歩して、五軒町に行。重威、昨日房州より帰京す。来客、重威。桃子、委員八名え
御礼ニ廻る。夜に入て帰。

発信 旅順武内いく代え。上海さゝ木え。

*上海さゝ木(上海佐々木)

十一月二十七日 庚辰 水曜 雨。

課業例の如し。来客、万里知子、芳房、重威。発起人、今一度集会願度ニ付、十九日を約

して、端書を出す。

発信 書画骨董雜誌社へ書を出す。上海佐々木え小包物出す。

十一月二十八日 辛巳 木曜

来客、滝沢永二。婦人世界。

発信 木津唯専寺え小包。

十一月二十九日 壬午 金曜 雨。朝より雨。終日降通したり。

学校拡張発起者を招く。安田輝子、田村長子、星野花子、美野部姑子、千家信子、江副静子、志賀鉄千代にして、種々寄附金泰集方を相談す。夜八時退散す。

発信 さゝ木金次郎え。木津唯専寺え。

*美野部姑子(美濃部姑子) *寄附金泰集方(寄附金募集方)

*さゝ木金次郎(佐々木金次郎)

十一月三十日 癸未 土曜 晴。

朝十時より駿台岩崎え見舞二行。帰途田村氏え行。昼飯を呼はれて帰。

(十二月)

十二月一日 甲申 日曜 晴。 海事協会行。

朝九時より光円寺ニ参詣す。故千世子十七回忌執行。十時、読経畢而姉小路二行。昼餐を饗せらる。来会者、万里通房伯、裏松千代子、岡崎、予、正子、李子、初子、駒、北村。極往事を談して、三時帰。

十二月二日 乙酉 月曜 晴。朝、始めて氷を結ぶ。霜、雪の如し。44(度)。

散歩して帰。課業例の如し。本日より翌詠草にかゝる。実業之日本社より写真師来りて撮影す。来客、重たけ。三条篤子様、五日御輿入二付、御暇乞に成らせられる。橋岡久太郎え祝物と金五円を贈る。

*翌詠草(翌詠草) *重たけ(重威)

十二月三日 丙戌 火曜 晴。朝、霜、雪の如し。44(度)

姉小路良子様より白羽二重二疋と御帛紗地、鶴子え。書至、跡見春江より。発信 武内いく代え。吉宗えいえ。姉小路典侍さまえ。

十二月四日 丁亥 水曜 晴。44(度)。

課業例の如し。来客、志賀氏、水上氏、石山すまま。誂たる単子一對、小箆筒持来る。
*石山すまま(石山すま子) *単子(箆筒)

十二月五日 戊子 木曜 晴。46(度)。
朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、三条家に行。篤子様御輿入二付、二時御出門、御見立申上て退く。帰途、閑院宮様え参り、御息所御君と御話し申上て退く。又石山氏を訪て帰。

十二月六日 己丑 金曜 晴。44(度)。
課業例の如し。李子、熊谷斎藤氏二行。夜八時帰。

十二月七日 庚寅 土曜 晴。44(度)。
微恙。桃子、中村元嘉氏、島田氏え行。来客、重たけ。
*重たけ(重威)

十二月八日 辛卯 日曜 曇。
来客、石山すま子。橋本縫子え祝もの、白紋羽二重箱入を贈る。
発信 東洋婦人会え返書す。出席。

十二月九日 壬辰 月曜 晴。朝、氷甚し。4(ママ)(度)。
課業例の如し。来客、中村元嘉氏及林喜代蔵子。閑院宮松井氏より電話にて依頼事あり。

十二月十日 癸巳 火曜 晴。
課業例の如し。来客、鎌倉小児保育園父佐竹音次郎。絹本書廿余枚を渡す。午下三十分より、清国溥倫貝子殿下を鍋島侯邸に招待二付、東洋婦人会員も出席、一同庭園に於て撮影して帰られたり。後、暫時茶菓にて帰。
発信 武内いくよ、吉宗栄子え。

十二月十一日 甲午 水曜 晴。
課業例の如し。朝より、桃子横浜に行。来客、浦野玉子母いく、土井早苗、石山吉子。
(十二月十二日、十三日、記載ナシ)

十二月十四日 丁酉 土曜 晴。暖。
朝より授業、十二時迄。朝より発起人御出ニ相成て、種々協義す。泉会納会。午下一時より、習字教場舞台として、其前を見所にす。下に坐ふとんを敷詰て、上に毛とうを敷たり。

見所暖かく、至極宜し。二時開幕。始、三番叟、活人画。二番、御半長右衛門新宅の場、大カツサイ。三番、想夫恋、活人画。此間、ハイカラしるこや娘うつくし。元禄美人寿しや、実に奇麗。四番、当世表裏鏡五幕。此間、みかん菓子買娘大せいにて。五番、小人国一家円蛮、実に面白き事也。七時、全畢。予ハ、酒井家より度々の御迎ひニ付参上す。御主人、御病氣御快氣ニ付忘年会。長唄、琵琶等にて面白く、十一時帰。
*協義(協議) *毛とう(ケツトウ) *大カツサイ(大喝采)
*しるこや(汁粉屋) *みかん菓子買娘大せい(みかん菓子売娘大勢) *一家円蛮(一家団欒)

(十二月十五日、記載ナシ)

十二月十六日 己亥 月曜 曇。
午下一時より駿台岩崎男を訪ふ。病氣も追々快氣ニ付、去る八日より品川本邸に移転せられたると云。夫より品川の邸に行て、家従に逢て、万々寄附申込置。夫より増田孝君を訪ふ。病氣保養の為、転地留守中ニ付、若細君に逢て、右寄附の事をたのみ置て帰。

十二月十七日 庚子 火曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十二月十八日 辛丑 水曜 晴。

課業例の如し。来客、原安子、鶴子の御祝ニとて、実に貴重なる丸帯仕立て、其上金五百円を御持参せられたり。鷺田の月忌ニ付、光円寺にて法要。

十二月十九日 壬寅 木曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下二時、桑港津田氏より電報。今朝九時男子生産、母子共健全。実に歡喜極りなし。来客、大炊晨子、鶴子御祝品を持たせられる。安田善治郎君より書至。千家男より廻されたる寄附行為証書を見る。桃子、午下より發起人方々へ行。

十二月二十日 癸卯 金曜 晴。

課業例の如し。

十二月二十一日 甲辰 土曜 晴。

本日、午迄にて授業納。生徒、午下帰省する。予、川口連て、朝九時之汽車にて横浜茂木氏ニ行。午餐を済せて、来栖氏を問ふ。面談して、小野氏を問ふ。不在。石川徳右衛門も皆不在。フアブル・ルイズを問ふ。病氣追々よろしく、枕辺にて咄して帰。帰途、田辺幸

七を問ふ。在宅にて、古屋朝子も来りて、暫時咄して帰。茂木氏にて一宿。

十二月二十二日 乙巳 日曜 晴。58(度)。

朝十時汽車にて、予、栄子、伴人を連て、鎌倉三橋別荘二行。蝶子転地所にて、久々にて大悦。素謡会にて終日面白く、夜十一時帰。一宿。

十二月二十三日 丙午 月曜 晴。

朝、予、渡辺福三郎氏を問ふ。左右田氏を問ふて、午下、栄子と同しく、大谷氏、及増田増造氏、石井健吾を問て、直に三時三十分汽車にて帰。佐藤氏送りくられ、予、直に閑院宮様え参り、茂木地所返事申上て帰。

十二月二十四日 丁未 火曜 晴。

朝より永田町寺内大将二行。面談して帰。夫より原礼子を問ふ。又安田善治郎氏を訪て帰。

十二月二十五日 戊申 水曜 晴。

朝、高輪毛利安子様を問て、昼餐を戴て帰。

(十二月二十六日、二十七日、記載ナシ)

十二月二十八日 辛亥 土曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十二月二十九日 壬子 日曜 晴。

午下より閑院宮様に参り、両殿下に拝謁。歳末御祝義申上て、石山氏を問て帰。

*御祝義(御祝儀)

十二月三十日 癸丑 月曜 晴。

終日揮毫ものす。来客、小西庸子。

(十二月三十一日、記載ナシ)

(明治四十年会計)

月日	適用	収入	支出
八月二日	袋もの		二円
	浴衣一反		一円

跡見花蹊日記 明治40年

同日	雑収入	六円五十銭	十一円五銭
同日	雑費出		四円八十五銭
同日	外雑費會計之分		
廿九日	北村より潤筆	五円	
三十日	車代	十銭	
同日	電車賃	五銭	
同日	あんま	廿〇(ママ)銭	
同日	細楷一本	七銭	
廿九日	跳竜臥虎五	三十銭	
廿八日	茶ほうじ	六銭五厘	
同日	かいまき仕立	七十銭	
同日	下婢わかえ	五十銭	
廿二日	下婢りをえ	五十銭	
同日	原下婢え	五円	
廿日	新橋迄車	一円	
廿日	汽車代	五十銭	
十八日	二人車代	五十銭	
十四日	ラット氏教育学一冊	一円五銭	
十三日	下婢登え	五十銭	
十二日	鷺田え餞別	二円	
同日	あんま	四十銭	
十日	下婢え手当	四十銭	
九日	足袋五足代	一円五十銭	
同日	同し送り車		
八日	五軒町行車		
六日	堀田家より	一円五十銭	
五日	閑院様行		
一日	斎藤氏潤筆	七円	
三日	小包物三軒え		
四日	老銭五リ印紙	五十銭	*老銭五リ(老銭五厘)
三日	糖燐酸	八十五銭	
三日	あんま	一円	
	茶店車代共	一円	
	シイツ二枚		

跡見花蹊日記 明治40年

廿二日	同	同	同	同	同	廿一日	同	同	廿日	十八日	十七日	同	十五日	同	十日	九日	十日	五日	一日	二日	一日	十二月	同	三十日	廿九日	同	廿五日	廿二日	廿一日	十二日	同	十四日	
古屋朝子潤筆	閑院宮様より	原氏より歳暮	横浜車代	川口え汽車及車	茂木迄車代	汽車代	水道橋迄車	よたれ懸御守	半襟四懸	手袋	木銘仙二反	堀田家往復車	車代	三十回電券	酒井家より	端書会より	羽織紐二組	鍋島邸行	三条家行	姉小路行車	橋岡え祝	姉小路え備物		浅草婦人会会費	駿ヶ台行	焼継代	上野行	会費	松林孝子	松平妙子	植竹兼子より	万里え御花料	芝御寺行
三十円	三十円			五十銭										一元五十銭	五円							*備物(供物)		*駿ヶ台(駿河台)				三元	十二円五十銭	拾円			
					廿銭	一元	十銭	五円	四円	一拾銭五厘(ママ)			廿銭	一元廿銭			七十六銭				五円	二元五十銭		三元六十銭		六十銭	五十銭				三元		
		五十円		一元五十銭																													

廿九日	同	同	廿九日	廿七日	廿三日	同	同	同	同	廿二日																	
雜費払	公債利子	姉小路良子さま	菓子代	西齋藤政恵	石山氏え	婦人世界	越前徳平潤筆	三条家	茂木女中え	同	横浜車代	川口え	横浜汽車代	下婢僕祝義	繪葉書会	藤堂芳子	松平妙子	田中久子	安田暉子	森家	来栖貞子	園祥子	田辺栄子	九条家	女官より	同	三条家
	七円三十五銭	二円	五円	七円	十五円	二円五十銭	七円	二円五十銭	二円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	五円	十五円	四十円	四十円
四十円			二円九十銭		五円				五円	三十銭	一円五十銭	五十銭	一円廿銭	四円九十銭													

*祝義(祝儀)